

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 10 月 24 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/24 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心プール系：約 2.0 m ³ /h	31.9	106.1 kPa abs	A系： 0.79 vol%
		給水系：約 2.8 m ³ /h			B系： 0.79 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心プール系：約 4.3 m ³ /h	44.6	4.89 kPa g	A系： 0.05 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心プール系：約 4.4 m ³ /h	44.6	0.21 kPa g	A系： 0.21 vol%
		給水系：約 1.8 m ³ /h			B系： 0.19 vol%

*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/24 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	22.5
2号機	循環冷却システム	運転中	23.1
3号機	循環冷却システム	運転中	21.0
4号機	循環冷却システム	停止中	41

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

【3号機】・10/24 5:21 頃 運転停止中だった3号機使用済み燃料プールの塩分除去装置(モバイルRO装置)において、「モバイル塩分除去装置異常」(一括警報)が発生したため確認したところ、「塩分除去装置ユニット漏えい検知」警報が発生していた。当社社員が現場を確認したところ、6:15 頃、トラックの荷台に設置された同装置下部の排水受け皿(ドレンパン)に黄色を帯びた液体が溜まっていることを発見。漏えいは約 2.5m×3m×1cmの範囲で、現場確認時には既に継続的な漏えいは停止。漏えいはドレンパン内に留まっており、外部への流出はない。6:32、双葉広域消防本部へ通報。漏えい箇所上部には 25%塩酸タンクがあり、漏れた液体の分析結果がPH:1未満、導電率:200mS/cm未満、塩素濃度:250,000ppm、比重:1.119であることから、当該タンクの塩酸が漏れたもので、漏えい量は約75リットルと評価。なお、本件によるけが人等は発生していない。原因については現在調査中。

【4号機】・10/22 9:36 使用済燃料プール代替冷却系において、二次系配管のポリエチレン管への交換作業を行うため、使用済燃料プールの二次系を停止。

10/24 13:30 同作業が終了したことから、使用済燃料プール代替冷却系の二次系を起動。起動後の運転に異常はなく、使用済燃料プール温度は冷却時の約 29℃から約 42℃まで上昇したが、運転上の制限値 65℃に対して余裕があり、使用済燃料プール管理上問題ない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	10/24 15:44 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	10/23 13:07 ~ 10/24 8:11 移送実施
4号機	4号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	10/24 16:02 ~ 移送実施中
6号機	6号機タービン建屋	→ 仮設タンク	10/24 10:00 ~ 15:00 移送実施

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/24 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H24/10/23～ 1号機サプレッションチェンバ内への窒素ガス連続封入を開始。サプレッションチェンバ内の水素濃度を推定2%程度まで低くするために、連続封入期間は1ヶ月程度を予定。
- H24/10/24 所内の電源切替作業に伴い、1号機原子炉格納容器およびサプレッションチェンバ内への窒素ガス封入を一時的に停止し、その後再開。それぞれの停止時間は、原子炉格納容器は10:10～10:48、サプレッションチェンバは9:16～10:56。なお、原子炉圧力容器への窒素ガス封入は停止していない。

以 上